

脊柱側彎症検診のおしらせ

脊柱側彎症とは、さまざまな原因で背骨がわん曲してしまう病気です。この病気はほとんど自覚症状がなく、本人はもちろん周りの人も気づかないまま進行する可能性がある脊柱変形であるため、早期発見・早期治療が大切になります。

渋谷区では、この検診を小学校6年生・中学校2年生を対象に実施しております。

つきましては、今年度の検診を下記のとおり行いますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

記

1 日 時 6月15日(月)

2 場 所 本校

3 検診対象及び内容

<1次>

検診内容 モアレ写真撮影(背中の等高線を写す検査)

検診対象 (1)小学校6年生・中学校2年生の全員
(2)昨年度の検診結果「次年度モアレ再検」となった
(3)定期健康診断(視触診)で異常を認められた人
(4)転入生で過去に検診を受けていない人

※すでに治療中の場合は事前に学校にご相談ください。

4 検査実施時について **★必ず体育着を持ってきてください。**

検査は上半身裸(背中から尾てい骨部分まで着衣なし)で行います。カーテンで仕切られた個室を用いるなど1人ずつプライバシーに十分配慮して実施します。なお検査技師はすべて女性です。

※当日受診できなかった児童生徒、足を怪我していてもすぐ立てない場合は

7月1日(水)午後2時~3時30分に予定している欠席者検診を受診してください。

■検診場所 (渋谷区役所本庁舎8階 会議室)

<2次> 検診内容 区内の整形外科を受診

検診対象 (1)1次検診で異常が認められた人
(2)1次欠席者のうち内科健診で脊柱側彎の疑いがあつた人

<3次> 検診内容 X線直接撮影

検診対象 (1)2次検診で異常が認められた人
(2)1次異常者で2次未検診者
(3)昨年度の検診結果で「次年度直接X線撮影」となった人

「脊柱側弯症」について

脊柱側弯症は（背骨の曲がり）は、成長期における重要な健診項目の一つであり、早期発見がとても大切な病気です。保護者の皆様におかれましては、この病気に十分なご理解をいただき、日頃からのお子様の姿勢にご注意くださいますようお願いいたします。

1 「脊柱側弯症」とは、どういう病気なのでしょうか？

「側弯」には、次の2種類があります。

- (1) 普段からの「悪い姿勢」によって背骨が曲がる「機能性脊柱側弯症」
→これは、一時的なもので、姿勢を正しているとなおります。
- (2) 姿勢に関係なく、背骨がねじれながら曲がっていく「特発性脊柱側弯症」
→これは、病的なもので、自分で姿勢を正しても、背骨はまっすぐになりません。
主として、学童期に発生しやすく、ほとんど自覚症状のないまま進行していく病気で、何よりも早期に発見することが大切です。

2 「脊柱側弯症」を見つける方法

- (1) 家庭・学校での姿勢の検査（視診）
- (2) モアレ写真撮影
- (3) 家庭で「脊柱側弯症」を見つける方法

A 立ったときの検査

右図（a）のように、

- ①→ 両肩の高さに差があるか？
- ②→ 両肩甲骨の高さに差があるか？
- ③→ 脇の線が左右対称になっているか？

B 前屈しての検査

右図（b）のように、

肩の力を抜いて両方の手のひらを合わせてゆっくりおじぎをしながら

- ④→ 肩・背中・腰の高さに差があるか？

- (4) モアレ写真撮影（学校で行う検査）

背中の中の等高線を写し、客観的に背中の中の状態を見る検査
右図のように写ります。

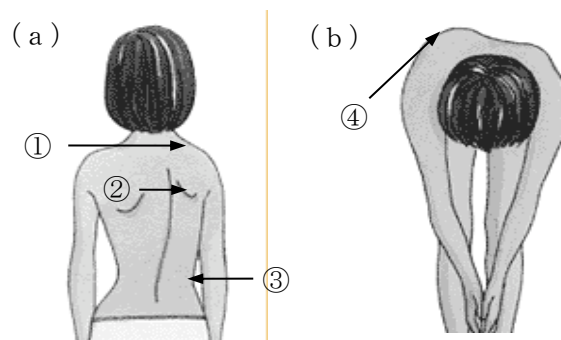
1つの縞は5mm差の等高線で、

正常者の左右対称となります。

5mmの違いで左右差がでてしまうため、

検査を受けるときは

立ち方・位置に十分注意する必要があります。



3 「脊柱側弯症」といわれたら、どうすればよいのでしょうか？

専門の整形外科医による、適切な治療・観察・正しい指導を受けることが、何よりも大切です。